

温州ミカンにおける果梗部果皮の異常肥大について

(第2報) 異常肥大果減少のための摘果に関する試験

江 原 忠 彰

(佐賀県果樹試験場)

EHARA, T.

Studies on the Necked Fruits of Satsuma Mandarin.

2. Effect of the Fruit Thinning on Decrease of Necked Fruit

温州ミカンにおける果梗部果皮の異常肥大果（以下、乳頭果という）は、果実の外観をいちじるしく悪くし、商品としての価値を落す原因となっている。この乳頭果の減少をはかる対策の資料を得るために実態調査を行った結果、第1報で報告したように

- ① 乳頭果が着果していた果梗枝、結果枝、結果母枝の枝径は、いずれも正常な果実が着果していた枝径よりも大きい。
 - ② 乳頭果は、直果よりも有葉果に着果している度が多い。
 - ③ 上を向いた結果枝に乳頭果の着果が多い。
 - ④ 樹冠外部に乳頭果の着果頻度が高い。
 - ⑤ 乳頭果の着果が多い側枝部は、結果量の少ない場合が多い。
- ということがわかった。

本報では、乳頭果を少なくするための摘果の程度、摘果時期、着果の状態について検討したので、その結果を報告する。

材料および方法

乳頭果が比較的多く着果する、試験場内の2、3年生、三保早生、興津早生、宮川早生、山崎早生を用いた。供

試樹数および処理区は第1表のとおりである。

結果ならびに考察

11月10日に採収を行ない、乳頭果の程度別果数割合を調査した。

① 摘果程度：第2表に示すように、摘果を多くした葉果比45葉区で乳頭果が最も多く、20葉区を除けば、葉果比が小さいほど（結果量が多いほど）乳頭果は少くなる傾向が認められた。また、乳頭果“激”の果実は、葉果比が小さいほど少ない傾向が認められた。

② 摘果時期：第2表に示すように、摘果時期を遅らせるほど乳頭果が少くなる傾向が認められた。8月1日摘果区と8月30日摘果区では、8月30日摘果区の乳頭果がやや多い傾向があったが、8月30日摘果区が7月15日摘果区より乳頭果が少ないこと、および本試験が枝別処理であることなどより考えて、8月に入ってから摘果時期の差は、乳頭果の多少に影響ないものと考えられた。

③ 着果状態：第2表に示すように、下向果結果区は、他の3区に比べ、乳頭果が少なかった。上向果結果区、群結果区は、標準結果区と同程度の乳頭果を生じたが、上向果結果区は、群結果区、標準結果区よりも、乳頭果

第1表 処理区の内容

項目	供試樹数	処理区	備考
摘果程度	4 樹	葉果比 15葉区	7月5日達観による粗摘果を行ない、7月24日葉果数調査による本摘果を行なった。 亜主枝単位の枝別処理とした。
		〃 20葉区	
		〃 25葉区	
		〃 35葉区	
摘果時期	4 樹	7月5日摘果区	葉果比35葉となるよう摘果した。 7月5日区は、7月5日達観による摘果を行ない、葉果数調査を行なった後、7月9日に35葉となした。 亜主枝単位の枝別処理とした。
		15日 〃	
		8月1日 〃	
		30日 〃	
着果状態	3 樹	上向果結果区（果頂部が上を向いた果実を主として結実させる）	摘果は7月18日、19日に達観により行なった。 主枝単位の枝別処理とした。
		下向果 〃（果頂部が下 〃）	
		群 〃（2～4果あて部分的に群をなして結実させる）	
		標準 〃	

“激”の割合が多い傾向が認められた。

第1報の実態調査および本報の試験結果より考えて、局部全摘果を7月に行ない、8月に入ってから、結実させている側枝部の結果量を葉果比15~20位に保たせ、果頂部が下を向いた果実をなるべく多く残すような摘果をすることで、乳頭果を減じることができるものと思われた。しかし、当初より結果量が少ない樹においては、摘果による乳頭果の減少は考えられず、剪定方法、誘引、環状剥皮、など摘果以外の方法について検討を加える必要があり、また、結果量が多い樹でも、若木など樹勢の強い樹や、例年乳頭果が多い園において、今回の試験結果が、乳頭果の減少にどの程度役立つかについても、今後、更に検討を加えていきたいと考えている。

第2表 乳頭果の着果状況

項目	処理区	乳頭果率	乳頭果程度別割合		× 突出度
			激果	中果	
摘果程度	15葉区	15.3%	0%	1.4%	5.6
	20葉区	32.1	0	1.7	11.2
	25葉区	24.7	0.8	3.2	9.9
	35葉区	26.3	1.3	3.8	10.6
	45葉区	44.9	3.4	8.8	20.2
摘果時期	7月5日区	58.8	0	4.9	21.2
	15日区	47.6	0	5.9	17.5
	8月1日区	33.9	0	2.6	12.3
	30日区	40.9	0	1.4	14.1
着果状態	上向果結果区	61.8	5.5	21.2	31.3
	下向果	38.1	1.5	8.4	16.5
	群	60.1	0.8	15.0	25.5
	標準	59.5	4.3	15.4	27.8

注) 突出度 = $\frac{\text{乳頭果 激の果実数} \times 3 + \text{中の果実数} \times 2 + \text{軽の果実数}}{\text{調査果数} \times 3} \times 100$